



【シーン別】

中小企業の 地震対策ガイド

Powered by
Sony Biz Networks Corporation

Somv-lier
[ソムリエ]

もくじ

3. 中小企業こそ事前防災対策が必要！

3. 常識にとらわれない！
自社の現状に合わせた対策を

4. シーン別地震対策！ その時、あなたはどのようにする？

6. シーン別避難時 & 避難後の対応

8. 最後に

8. 付録について

12. 付録

東日本大震災を境に企業の BCP 策定に対する注目度は一気に高くなりました。BCP とは Business Continuity Plan の略。企業の視点としてはビジネスを継続 (continue) するという目標がありますが、何よりも従業員の命を守ることが大事。従業員あつてのビジネス継続です。大切な人材の命を守るために、起こり得るケースを想定しながら、中小企業が災害の事前対策としてできることとその考え方について紹介します。今回は地震災害について、見ていきましょう。

中小企業こそ事前防災対策が必要！

これまでに数多くの震災を経験した日本ですが、地震対策や BCP 策定を実施していない中小企業は実に多いようです。大企業のように、まだ起きていないことに予算をかける余裕がない……。少人数だからそこまでの対策は必要ない……。その理由はさまざまでしょうが、中小企業だからこそ、事前対策が重要なのです。

その理由は極めてシンプル。規模が小さいだけに、震災による影響がクリティカルなものになってしまうから。「大企業のように、事業継続を代替する規模がない」、「人材が少数だけにそれが失われると打撃も大きい」、「顧客が他社のサービスに切り替え、ビジネス機会を失ってしまう。その分、事業に与える影響も大きい」など、例を挙げていけばキリがありません。

つまり、どれだけ属人性を排除しようとしても、人によるところが大きい中小企業だからこそ、人が大事です。従業員の安全確保が、復旧要員の確保に直結することを再認識し、災害に備えて従業員を守ることを真剣に考えなければなりません。

常識にとらわれない！ 自社の現状に合わせた対策を

地震大国日本では、多様な防災マニュアルや関連する商品やサービスが存在

します。それらを活用することはもちろん大切ですが、本当に必要なのは、災害が発生した時に「自分たちがどうなるか」を想定し、その対策を練っておくことです。

例えば、企業で行われる避難訓練。実際に大地震が発生した時の状況を具体的に想像している人はどれほどいるでしょうか。その時、何が落ちてきて、器物はどのように破損するのか。ビルの構造上、もっとも安全な場所はどこなのか……。そこまでしなければ、地震対策にはなりません。よく、地震が発生したら「机の下に隠れろ」と言われます。確かに「落下物から身を守る」という意味では正しいのですが、それはオフィスの状況によって異なります。周囲に落下物がなかったとしたら……。その間にドアが開かなくなってしまったら……？

大切なことは、防災対策は自分たちの環境を基に考えること。そして、それがなぜ必要で、何のために決められているのかを考えること。目的を考えれば、必然的に何が危険で、安全を守るにはどうすればいいかが見えてくるのです。

シーン別地震対策！ その時、あなたはどうする？

突然、大規模な地震に見舞われたら、誰だって冷静に行動できないもの。事前にあらゆるシーンを想定し、「いざ!」という時に困らない、最善の行動をとれるように準備しておきましょう。

Scene.1 机にもぐったら、閉じ込められた!

地震が起きたら「机の下に身を隠す。」小学校の避難訓練時から学んだ基本的なこと。これ自体は間違いではありませんが、常に正しいとは限りません。なぜなら、机にもぐるのは手段であり、目的は“落下物のない安全な場所に退避すること”だからです。落下物が来ないような環境で、無意味に机にもぐって過ごしているうちに避難経路が寸断されてしまっては困ります。

大切なのは、「①落下物による危険を事前に排除しておくこと」「②オフィスでもっとも安全な場所を把握しておくこと」「③避難する道を確保しておくこと」です。ただし、狭小なオフィスでは、席の真後ろに資料の本棚が……なんてこともしばしばありますし、大規模な地震ではプリンターなどのOA機器が縦横無尽に移動して危険な状況となることも明らかになっています。オフィスのレイアウトや状況も踏まえて、どのような行動をすべきかを従業員全員に明らかにし、最善の準備をしておくようにしましょう。また、一般的な方法が自社では適用されないケースがあるということを理解しておきましょう。

Scene.2 窓ガラスが大破。避難経路に破片が散乱!

オフィスの落下物対策などを万全にしている、見落としてしまいがちなのがビルの設備。特に窓ガラスには危険が伴います。窓ガラスが飛散してしまうと、外にいる歩行者を危険にさらし、社内に散乱すれば避難経路が危険になります。そんな事態に陥らないように、事前の対策を行っておきましょう。例えば、自分たちで窓に貼りつけられる「飛散防止フィルム」が1000円ほどで売られています。ガラスの破損対策だけでなく、家具の転倒を防止するもの、家具の移動を抑制するものなど、わずかのコストと手間のできる対策は意外とあります。従業員の身近な環境で行うので、社内意識を変えるきっかけ作りとしてもいいでしょう。

Scene.3 同僚がトイレに閉じ込められた!

地震をはじめとした自然災害は、人間の都合などおかない。その時、従業員の誰かがトイレで苦闘していることも十分に考えられます。そんな状態でドアが開かなくなってしまうたら……。

そのまま放っておくことはできませんが、素手と人力だけでできることには限界があります。バールやジャッキ、ハンマーなど救助に必要な工具類は準備しておきましょう。大災害時において、レスキュー隊がすぐに来てくれることは望めません。災害時の基本は「自助・共助・公助」と言われます。しっかりと準備しておくことで、自分たちの命を守り、周囲を助けられる手段を用意しておくといいでしょう。工具類の準備と格納場所の周知は、二次災害を防ぐ

ことにつながります。

Scene.4 オフィスから出られない!

近年では、セキュリティーの観点から、自動で施錠されてしまうオフィスがほとんど。ですが、「災害時に閉じ込められてしまうのでは……」なんて疑問を持つ人はなかなかいないですよ。 「閉じ込められた !?」とパニックになってしまえば、スムーズな避難もできなくなってしまいます。緊急時には手動で内部から解錠する方法、火報信号と連動して扉を開放する方法などさまざまな手段が用意されているので、それをあらかじめ理解し、あわてず行動できる準備をしておきましょう。

シーン別避難時 & 避難後の対応

発生時の被害を最小限に食い止められたなら、次は安全な場所へ避難を開始します。避難時や避難場所での懸念事項を想定しておき、従業員の安全をしっかりと確保しましょう。

Scene.1 ハザードマップ通りに避難。でも道が……

災害状況を想定して作られたハザードマップは強い味方です。しかし、災害によってはその避難経路通りに動けるとは限りません。時に発せられる緊急警報などの情報を基に、柔軟な対応ができるよう心の準備をしておきましょう。地震発生後に起きた火災や土砂災害、津波など、自社周辺で想定しうるのは想定しておくことが必要です。また、もしハザードマップ通りにいかなかった場合、次の手が打てるように、取り残される人が出ないように、避難時のチームを組織しておくことが欠かせません。災害時の責任者だけでなく、プロジェクトチームを組織し、定期的に議論をしてみてもいいでしょう。個々の従業員が勝手な行動をとれず、まとまって迅速な行動ができるように、事前・災害時ともにきっちりとコミュニケーションをとれる体制を整えておきましょう。

Scene.2 地震発生直後から発生するのは、従業員のトイレ問題

水や食料に関してはしっかり備蓄をしても、トイレに関しては「いざと

なったら、その辺で……」などと準備をしていない企業も多いのではないのでしょうか。ところが、防災備蓄でもっとも大切だとされるのは、実はトイレ。なぜなら、トイレの需要は、地震発生直後から発生するからです。対策ができていないと周囲に汚物をまき散らし、衛生管理が難しくなり、健康面に影響を及ぼすことも考えられます。

水や食料を3日分用意するなら、同じだけの非常用トイレが必要となります。成人は1日あたり1.5リットルの尿を生成し、それを5回ほどにわけて体外に排出します。予備も考慮に入れて、1日あたり6～7回分程度の非常用トイレを備蓄しておく必要があります。

Scene.3 乾パンばかりで飽き飽きだ!

最低限、命をつないでいける水と食料があればいいだろう。そう考えるのは間違いです。食事は人の心を潤すもの。災害時であれば、それがメンタルヘルスに大きく影響してきます。非常食の代名詞である乾パンだけでなく、おいしい非常食を用意しておけば、それが従業員の緊張を緩め、ストレス軽減にもつながります。発熱剤とセットになったシチューや牛丼など、温かいレスキューフードも販売されていますので、しっかりと備蓄しておきたいところです。また、食品を加熱したり、お湯を加えたりできれば、非常食のバリエーションも増やせます。カセットコンロなどを準備する場合には、フリーズドライ食品やアルファ米、レトルト食品なども非常食として準備しておくといでしょう。

Scene.4 家に帰る? 会社にとどまる?

災害時にもっとも気になることが、家族の安否です。「小さな子供がいる」、「高齢の母親が心配だから……」。家族の安否に不安がある従業員を会社にとどまらせることはできるでしょうか?

実際、東日本大震災の際にも、首都圏では多くの人が徒歩で帰宅する状況がありましたが、その理由の多くが家族の安否がわからないことにありました。たとえ社内に食糧や水などを備蓄しても、二次災害の危険がわかってい

でも、従業員が無理にでも帰宅すれば、従業員の安全を確保することは難しくなります。となれば、優先度が高いのは従業員とその家族の安否確認ができる体制です。これが、従業員を二次災害から守る対策と考えることもできるのではないのでしょうか。

安否確認の方法は、電話や携帯電話のメールだけではつながらない状況もあるため、不十分です。災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害用伝言板サービスの周知などが必要でしょう。また、安否確認の必要な家族とその連絡先を把握し、安否確認を行う仕組みを考えておく必要もあります。

最後に

ここで紹介した事例は、ほんの一部です。皆さんのオフィスの状況や地域の特性、被害状況を考慮したうえで、しっかりとした対策を練りましょう。特におすすめしたいのは、防災対策責任者を中心にプロジェクトチームを組織すること。従業員の意識を高め、同じ目的、同じ目線で行動する。災害時こそ企業としてのまとまりが問われるのかもしれないね。

付録について

本付録は災害時に役に立つ一覧表です。これらは、ウィズワークス出版の『中小企業のためのBCP策定パーフェクトガイド』に掲載されているものの一部です。

著者の高荷 智也氏が運営するサイト『備える.jp (BCP 解説コーナー)』や出版社のウィズワークスが運営する「月刊総務オンライン」では、BCP対策や総務のお役立ち情報が掲載されています。ぜひこちらも参考にしてみてください。

今後企業は厳格な管理が求められる

急速な少子高齢化、人口減少によって働き手の確保はどの企業にとっても大きな課題となっている昨今。国は高齢者や女性、障害者などの雇用・活躍を推進する一方で、過重労働防止対策の強化や正規・非正規社員の待遇格差の解消など、すべての労働者がいきいきと働く社会の現実に向けて様々な対策に力を入れています。

このような国が目指す「全員参加型社会」の実現に向け、新たに様々な法改正が続いていくことも予想されおり、企業にとってますます厳格な管理が求められることになるでしょう。

次世代勤怠管理システム “AKASHI”

しかし、これらの課題は勤怠管理システムを活用することで、効率的かつ確実に労働時間を管理することが可能となります。ソニービズネットワークス株式会社が提供する「次世代勤怠管理システム AKASHI」は、パソコンやスマートフォンなどのデバイス上からワンクリックで打刻でき、勤怠状況がリアルタイムで把握できるサービスです。

AKASHI は洗練された UI デザインで「誰でも使える」を実現しました。



ワンクリックで勤怠が確認

出勤簿の表示項目は自由に設定

ICカードやタブレット打刻対応

タイムカードや申請用紙は不要

コンプライアンス・法改定対応

管理者も従業員もアラートで瞬時に確認

AKASHIでできること

ITの進んだ現代でも、勤怠管理をタイムカードの紙の申告書、手作業で行っている企業も少なくありません。この手法では、働き方が多様化し勤怠管理がより厳格化されている今日では、ミスや不正を生み出す要因となってしまいます。

AKASHIでは、パソコンやスマホで簡単に退社、残業の報告ができ、これらのデータを一元管理することができます。また、GPS 打刻機能により、直行・直帰や出張先でも社員の勤怠を正確に把握することもできます。

さらに、これらのデータを給与計算システムと連動させれば簡単に給与計算も行うことができ、上手に活用することによって労務管理にかかるコストを大幅に削減することが可能になります。



<https://ak4.jp/>

※AKASHI は、ソニービズネットワークス株式会社の商標です。

※  は、ソニービズネットワークス株式会社の商標です。

付録

救助用品・応急救護用品一覧表

種別	備蓄品	数量	保管場所	入れ替え時期
救助用品	バール	1個	入口道具入れ	-
	ジャッキ	2個	入口道具入れ	-
	ロープ	1本(10m)	入口道具入れ	-
応急救護用品	包帯	5包み	救急箱	-
	参画金	5枚	救急箱	-
	脱脂綿	20枚×3パック	救急箱	-
	消毒液	2個	救急箱	YYYY/MM/DD

防災備品用品一覧表

カテゴリー	備蓄品	1名あたり	保管場所	期限管理	保管場所
排泄・衛生	非常用トイレ	7回×3日	×××個	YYYY/MM/DD	倉庫
	トイレット ペーパー	1個	×××個	YYYY/MM/DD	倉庫
	アルコール ティッシュ	1個	×××個	YYYY/MM/DD	倉庫
水・食料	緊急避難時用 飲料水	500ml ペットボトル1本	×××個	YYYY/MM/DD	各デスクの袋
	備蓄用飲料水	3L×3日×人数	×××個	YYYY/MM/DD	倉庫
	緊急避難時用 携帯食	栄養補助食品 1食×3日	×××個	YYYY/MM/DD	各デスクの袋
	乾パン・ビスケット などの主食類	1食×3日	×××個	YYYY/MM/DD	倉庫

緊急情報カード

カテゴリー	備蓄品	内容
連絡先情報	社員番号	1234
	氏名	〇〇一郎
	自宅番号	XXX-XXXX-XXXX
	携帯電話番号	XXX@XXXXX.com
	携帯メールアドレス	XXX.XXX
	Facebook アカウント	XXX-XXXX-XXXX
	緊急時連絡先	※同居家族の電話番号
安否確認	安否確認対象家族	父) XXX-XXXX-XXXX 母) XXX-XXXX-XXXX 弟) XXX-XXXX-XXXX XXX@XXXXX.com
通勤情報	自宅住所	〇〇県〇〇市〇〇町 1-2-3
	通勤ルート	自宅 → JR〇〇線 → JR〇〇線 → 会社
	通勤時間	45分
	徒歩通勤の可否	可
	徒歩通勤の時間	4時間
	大規模災害発生時の 帰宅の必要性	なし ※ただし家族の安否確認が取れている場合
業務情報	所属部署	〇〇事業部
	担当業務	〇〇グループ〇〇担当
	保有資格、社内スキル	普通自動車免許
訓練状況	普通救命講習	YYYY/MM/DD
	消化訓練	参加履歴なし
	BCP 机上訓練	参加履歴なし

ソニービズネットワークス株式会社

(お問い合わせ先) bit-drive インフォメーションセンター

[URL]www.bit-drive.ne.jp

[TEL]0120-614-006

(9:00~18:00 土日・祝日・夏季休暇・年末年始を除く)